

平成 25 年 3 月 29 日

各 位 殿

岩手大学農学部附属動物医学食品安全
教育研究センター特任教員選考委員会
委員長 佐藤 繁

特任教員候補者の公募について

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センターでは特任教員候補者を下記により公募することになりました。

つきましては、貴機関に適当な候補者がおられましたなら、応募くださるよう周知方ご高配を賜りたくお願い申し上げます。なお、貴機関以外の方でも適当と思われる方がおられましたら、ご推挙いただければ幸甚に存じます。

敬白

記

1. 公募する教員の職名および人数

環境放射線衛生学部門 特任教授および特任准教授 各 1 名（任期は 3 年）

2. 環境放射線衛生学部門の概要および職務の内容

動物医学食品安全教育研究センターは企画調整、動物生産科学、食料生産動物医学、食品安全科学および産業動物実地疫学の各部門からなり、主として動物医科学系に属する総勢 25 名の研究員で構成されています。今回の公募は、新たに設置される環境放射線衛生学部門を担当する特任教授および特任准教授を充足するためのものです。

主たる職務は、共同獣医学科および動物医学食品安全教育研究センターにおける新しい放射線獣医学教育体系の構築と食の安全確保を目的とした環境放射線衛生に関する教育と研究です。

3. 選考方針

今回の公募にあたっては、次の諸項を満たす人物が望まれます。

- 1) 環境放射線衛生学に関する知識を有し、教育・研究指導を行える方。
- 2) 人格・識見に優れ、地域貢献に意欲のある方。
- 3) 博士の学位を有し、獣医師の資格を有する方。

なお、岩手大学は男女共同参画を推進しています。業績および資格等に係わる評価が同等と認められる場合には、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性を優先的に採用します。両住まい手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等については、岩手大学ホームページ (www.iwate-u.ac.jp/gender/) をご覧下さい。

4. 提出書類

- 1) 履歴書 1部 (写真貼付、署名、捺印、e-mail アドレスのあるもの)
- 2) 研究業績目録 1部 (別紙または岩手大学ホームページを参照下さい)
- 3) 主要論文別刷 10編以内
- 4) 教育研究に対する抱負 1部 (1,200字程度)
- 5) 推薦者がある場合は推薦状

5. 面接

選考過程において必要な場合には面接を行います。その際の旅費等は、各自ご負担願います。

6. 提出期限

平成25年4月22日(月)必着

7. 採用月日

平成25年5月1日以降できるだけ早い時期を予定

8. 提出先(問い合わせ先)

〒020-8550

盛岡市上田三丁目18-8

岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター特任教員選考委員会
委員長 佐藤 繁

Tel: 019-621-6203

Fax: 019-621-6203

E-mail: sshigeru@iwate-u.ac.jp

以上

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌*¹、(b) 紀要*²、(c) プロシーディングス、E. その他*³、F. 報告書・事業報告書等*⁴、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表*⁵、I. 国内学会発表*⁵の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本語の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- * 1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- * 2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- * 3：商業雑誌、資料等を記載する。
- * 4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。
- * 5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- * 6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- * 7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- * 8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- * 9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- * 10：Journal は略記する。
- * 11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)
農学について。〇〇出版社、東京、100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)
北上山地における畜産業、「岩手の農業」(大学太郎、学部一郎編)、△△堂、盛岡、pp. 10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」 (A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences" (Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.